

福島県教育庁南会津教育事務所 総務社会教育課

文化財 NEWS

文化財パトロール ～ 南会津町 ～

8月30日(水)、南会津町において文化財パトロールが行われました。今回は「**国指定重要有形民俗文化財大桃の舞台**」「**国指定天然記念物駒止湿原**」「**県指定重要無形民俗文化財南郷の早乙女踊**」の現地視察及び関係者へのヒアリングの概要をまとめました。



平野さん

【大桃の舞台】 所有者である大桃区長 平野さんと現況確認を行いました。平野さんは、「裏面外壁の損傷部については、修復に向けて手続きをしているところです。管理上の課題は冬場の雪下ろしと作業に当たる区民の高齢化です。11月の雪囲いは現在5人程度で行い、冬場の雪下ろしは年に2・3回程度行っています。」と話してくださいました。



【迫力のある太い梁】 舞台の顔とも言える正面の梁は細かな彫刻が施された一本木が使用されています。舞台中央部は二層になっており、珍しい構造とのこと。上の二重の前後には唐紙(からかみ)を入れることができ、その奥は楽屋となっています。上演される歌舞伎のシーンが思い浮かびますね。



【南郷の早乙女踊】 一般には田植踊といわれることも多いですが会津地方では早乙女踊と言います。鶴巢、下山、界、上平・上町(和泉田)の4つの保存会が管理団体として指定されています。今回は鶴巢早乙女踊り保存会の酒井さん、下山民俗芸能保存会の馬場さんにお話を伺いました。かつては戸ずつ回っていましたが、コロナ禍もあって現在は希望制にして各戸を回っておられるそうです。お二人からは、「踊り子不足と高齢化」が共通した課題となっている状況を伺いました。最後に、今後の保存に向けた要望を伺うとともに、文化財指定証書の確認を行いました。

【駒止湿原】 昭和村との境界に接した火砕流台地の駒止高原に散在している湿原で、ここに自生する湿原植物や沼沢植物類は自然の一大宝庫であり、学術上高い価値を有していると評価されています。渡部さんと相原さんから、保存状況と課題等について説明を受けました。渡部さんによると、「ニホンジカはニッコウキスゲを好んで食べる傾向にあり、食害防止対策のために設置した外周6kmに渡る防鹿柵の効果もあって、被害は減少しています。イノシシの侵入を防ぐワイヤーメッシュ柵は、特にここで珍しいとされている双苞ミズバショウが多く自生するエリアを中心に設置して保護しています。」と話してくださいました。

南会津町教育委員会文化財担当
渡部和臣さん(左二人目)
相原竜輝さん(左)

